

2011年度第1回中等教育機関日本語教師研修会：報告

今回は、陳錫宏先生(大仁科技大學應用外語系日文組講師)、緒方智幸先生(東海大學日本語文學系講師)をお招きし、「高校で読解をどう教えるか」をテーマに研修会を行いました。

日 時：(台北会場) 2011年4月2日(土) 14:00~17:00
(高雄会場) 2011年4月10日(日) 14:00~17:00

参加者：台湾の中等教育機関日本語教育関係者 (台北) 35名 (高雄) 19名

まず前半は、陳錫宏先生から読解の要素として8つの点(語彙力、文法力、文の構造、主語の省略、指示代名詞、文と文とのつながり、省略、日本語独特の表現)が指摘され、それらについてのご説明を皮切りに、高校で読解を教えるとき直面する問題、中国語母語者が読解で苦手なところなどについて解説がありました。更に、現場でどうやって教えるかについては、陳先生の普段の教え方の例が紹介され、文章に入る前の社会習慣の異同や背景説明の重要性、主語の把握、男女用語の区別や口語的表現、慣用語や筆者の本音のとらえ方などが、普段の授業の様子そのままにおもしろおかしく実演されました。そして、日常的に学生に要求すべきこととして、動詞は文型、イディオム、熟語や定型句などの形で覚えさせること、朗読の励行、外来語語彙(カタカナ語)への抵抗感をなくすこと、日常の自己訓練のさせ方について、詳しくかつ簡潔なご説明がありました。最後に、能力試験受験時のテクニックについても解説があり、持ち時間の把握に始まり、問われるのは常識ではなく筆者の意見や考え方であること、筆者の賛否の立場の判別法、質問を先に見てから読みに入ることなどなど、試験対策指導法も紹介されました。

後半は、緒方先生から、「連体修飾を探せ」と題して、連体修飾の判別、解読をキーポイントにした文章読解の指導法について、実践例と共にご教示いただきました。まず初めに長さの異なる3種の文章を提示し、長さの違いが連体修飾の長さで重なりによって生じており、連体修飾部を外すと3つとも同じ構造の文であることが示されました。次に、文の基本構造と修飾文の構造について復習を兼ねて概観した後、修飾部の構造の分析に進みました。修飾部の要素である、場所を表す助詞1つの違いや時間を表す語(句)、副詞(句)の違いによって修飾部の構造が変わり文意が変わる例や、単語1つの違いだけで修飾部の構造が変わり文意が変わる例、接続(複文か重文か)の違いによって修飾部の構造が変わり文意が変わる例などが示され、更に、複数の連体修飾が重なった場合の例も示され、正しい読解に連体修飾の判別がいかに重要かが指摘されました。そのようにして連体修飾を探し、判別した後、修飾部を外すと、文の基本構造が見えてくる。これが最終的な文章理解につながることであり、最も大事なことは連体修飾を探すことではなく、文の基本構造の理解であることが強調されました。指導に際してのポイントとして、複雑な長文の場合は教師が同じ文型を使ったわかりやすい別の文をいくつか用意して見比べさせることであり、同じ長文だけを使って構造分析を示してもわかってもらえないことが多いという経験談も紹介されました。最後に、板書やプリントなどで学生に提示する際の色分けの重要性が強調され、修飾部と被修飾部や副詞と動詞の関係などを色分けして示すこと、学生にも色分けさせることがわかりやすさや分析しやすさにつながる事が指摘され、閉会となりました。

以上のように、今回は、読解指導のポイントを整理し、その教育実践例を示す研修会と

なり、参加者は皆とても熱心に聴き入っていました。終了後のアンケートでは「読解についていろいろ勉強させていただきました。とても貴重な経験で、すごくありがたいです。教育現場で実践してみようと思っています。」「陳先生の講義内容はとてもおもしろくて、生徒にもそのような教え方で教えようと考えております。」などの好意的な感想の他、「とても満足した。」「勉強になった。」という声も多数寄せられました。

陳錫宏先生



緒方智幸先生



研修会の様子

